

2020年1月の金融経済概況のポイント

■景気の基調判断

- 今月の基調判断も、19/2月以降の「道北地域の景気は、緩やかに持ち直している」との判断を継続しました。
- 需要項目ごとの判断にも、変更はありません。観光は回復していますが、個人消費はやや弱めの動き、また、公共投資は持ち直していますが、住宅投資は減少しています。
- 雇用面や、金融機関の貸出の面についても、前回と同じ判断です。労働需給は引き締まっており、金融面でも、預金、貸出とも前年より増加しています。

■個人消費の動向

- 大型店売上高は、12月、土日祝日数が前年より2日少なかったことに加え、暖冬（旭川市の平均気温で平年比+0.5度）、少雪（旭川市の降雪量合計<110cm>で平年比▲42%、最深積雪<27cm>で同▲52%）で季節商品や重衣料が奮わず、前年比で減少しました。クリスマス前の12月23日が祝日ではなくなった影響も、小さくはなかったとの声が聞かれています。もっとも、この間、消費税率引き上げ前の需要増の反動の影響は着実に和らいでいます。
- 12月の新車登録台数は、引き続き消費税率引き上げ前の需要増の反動とみられる動き等から、軽自動車、除く軽、合計とも前年を下回りました。10~12月期は、7~9月期の前年比2桁増から大きく前年比マイナスへ転じており、7~12月期を均してみても同期間の前年比はややマイナスとなっています。

■観光の動向

- 道北4空港（旭川、稚内、女満別、紋別）の旅客数をみると、12月は、紋別空港で前年を下回りましたが、旭川、稚内、女満別空港が前年を上回り、全体でも前年を4か月連続で上回りました。この間、旭川空港の国際線は、12月、前年を下回りました。
- ホテル・旅館宿泊客数は、12月、年末の悪天候予想によるキャンセルの動きも一部にみられ、前年比減少となりました。10～12月期で括ると、前年をわずかに下回った形です。旭川市内のホテル客室稼働率も、同月、前年をやや下回りました。
- 各地観光施設の入込みは、12月、前年同月には地震の影響がほぼ解消したとみられる中、層雲峡地区、博物館網走監獄、ウトロ温泉で前年を下回りましたが、ウェイトの大きい旭山動物園（速報値）が好調に推移し、利尻・礼文フェリーも前年を上回ったことから、合計（速報値）でも前年を上回りました。

■公共投資の動向

- 上川、宗谷、オホーツクの3総合振興局における公共工事請負金額は、12月、宗谷で著増が続いていますが、上川、オホーツクで前年を下回り、全体で前年を下回りました。一方、19/4月以降12月までの累計では、上川で前年を下回りましたが、宗谷、オホーツクでは引き続き前年を上回っており、全体でも前年を幾分上回っています。

■住宅着工

- 新設住宅着工戸数は、11月、前月同様、持家や分譲が前年を上回ったものの、貸家が前年を下回りました。全体では、持家の増加寄与が大きく、5か月振りに前年比増加となりました。

■住宅以外の建築物

- 建築物着工床面積（非居住用）は、11月、オホーツクで前年比2倍を超える増加となったものの、上川で前年比8割減、宗谷でも前年を下回ったため、全体でもほぼ前年比半減となりました。もっとも、前年比で2倍を超える増加となった前月と括ってみると、変動の激しかった10、11月は結局、前年比で1割強の増加ペースとなっています。

■雇用

- 雇用状況は、引き続きタイトな状況が続いています。有効求人倍率は、11月、旭川、稚内、北見、網走の各職業安定所とも前年を上回りました。新規求人数は、11月、稚内、網走で前年を上回ったものの、旭川、北見で前年を下回り、4つの職業安定所を合計した新規求人数では前年をやや下回りました。

■金融動向

- 上川、宗谷、オホーツクの3総合振興局管下における金融機関貸出残高は、12月も前年を上回りました。12月まで10か月連続で前年を上回っています。

■今後のポイント

- 今後、道北地域の経済を見ていく上でのポイントとしては、①公共工事について、一方で道北地域での公共工事請負金額の伸びが北海道全体より見劣りしつつある点も見据えつつ、人手不足の問題を抱える当地の建設業者が受注を続けられるかどうか、注視したいと思います。また、②当地の旺盛な設備投資意欲が来年度に向けても維持されるのか、③消費税引き上げ前の需要増の反動の影響は着実に和らいでいますが、活発とは言い難い当地の消費マインドを長く曇らせる影響が残らないか、に

引き続き注意して見て参ります。なお、このほか、④記録的な少雪や、
⑤新型肺炎の拡大が当地経済に及ぼす影響についても注視したいと思います。

以 上